

大項目	読むこと
小項目	特殊音節の読み
タイトル (教材名)	拗音さんかくシート
目的 身につけてほしい力	2つの音がどう混成して1音になるのかを理解する。
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	
教材の使用方法	<p>【視覚化して示す】 (例えば)『「き」と「や」がくっつくと「きや」になるよ。き、や、き、や、き、や、(だんだんはやく言う。同時に、シートの右端から左端へと指導者が指を動かす。)・・・「きや」になった! 「きや」という言葉は声に出すと(音にすると)「キャ」と読むよ!』</p> <p>【動作化して示す】 「き」で1拍(手を1回たたく)、「や」で1拍、「きや」になると両手を握手する形で1回たたく。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・活動後、拗音を含む単語を読む際、動作化して音声を確認する児童生徒の姿が見られました。 ・多感覚を使うことで、特殊音節の読みの定着が期待されます。 ・参考文献 「多層指導モデル MIM 読みのアセスメント・指導パッケージ」(海津亜希子、学研、2010年)